

# 縦隔腫瘍と思われた一例



岩手県立中部病院 放射線科

漆田 咲礼

【患者】

36歳 男性

【主訴】

突然の喀血、呼吸苦

【既往歴】

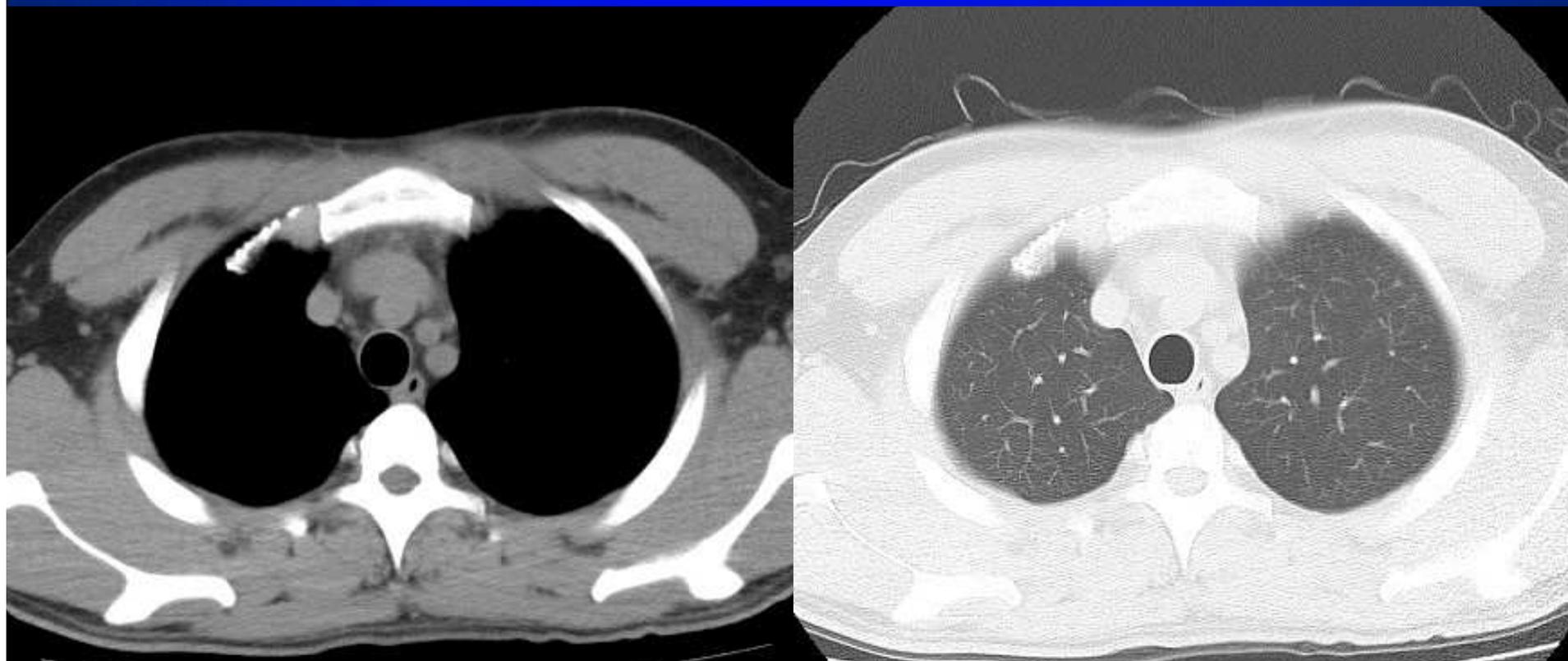
10年前 両足骨折

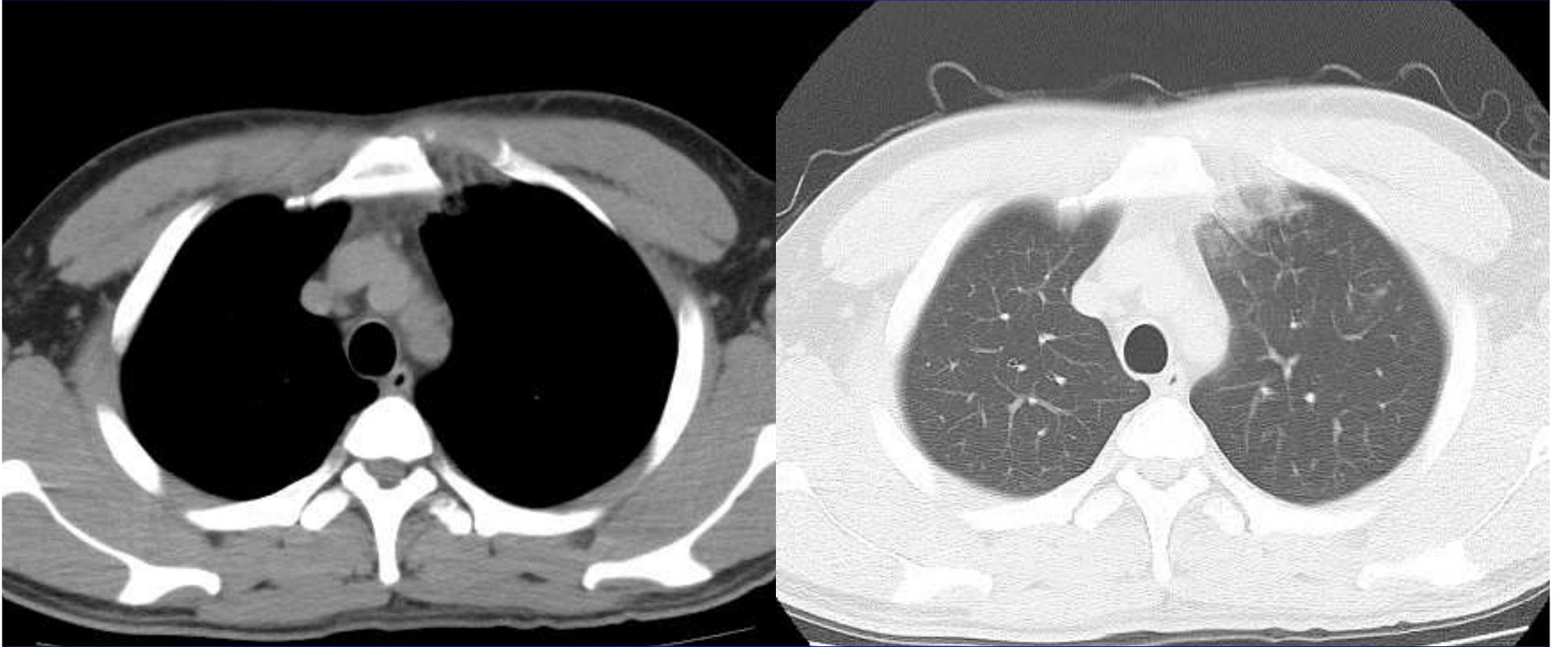
今年2月 胃潰瘍にて内視鏡的止血術施行

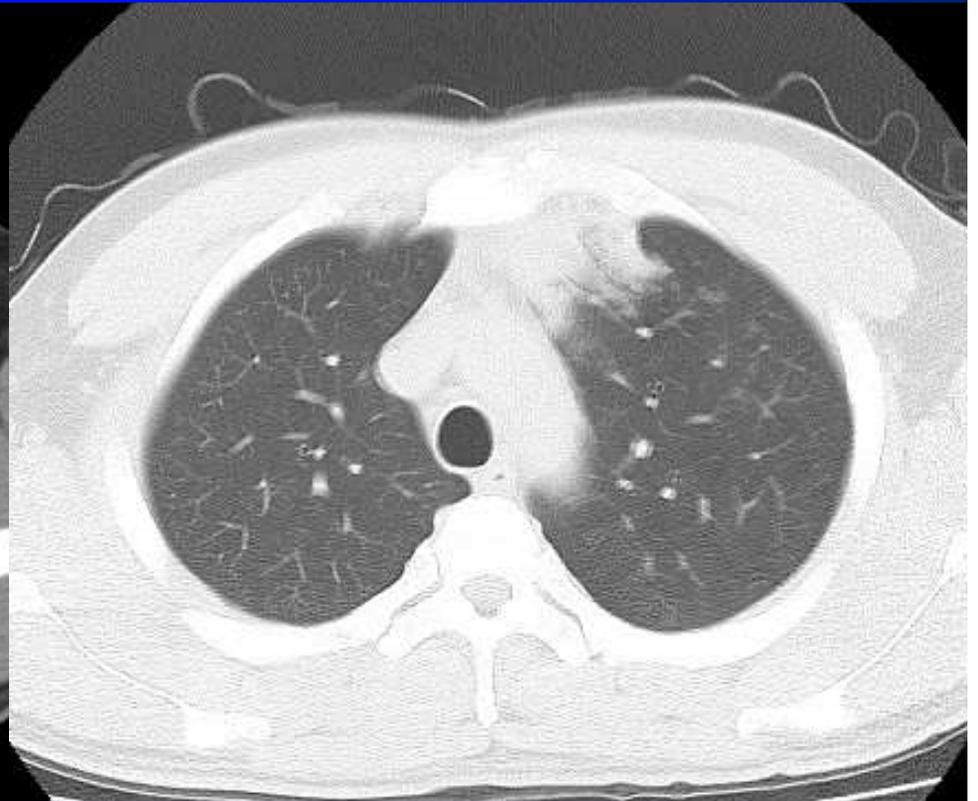
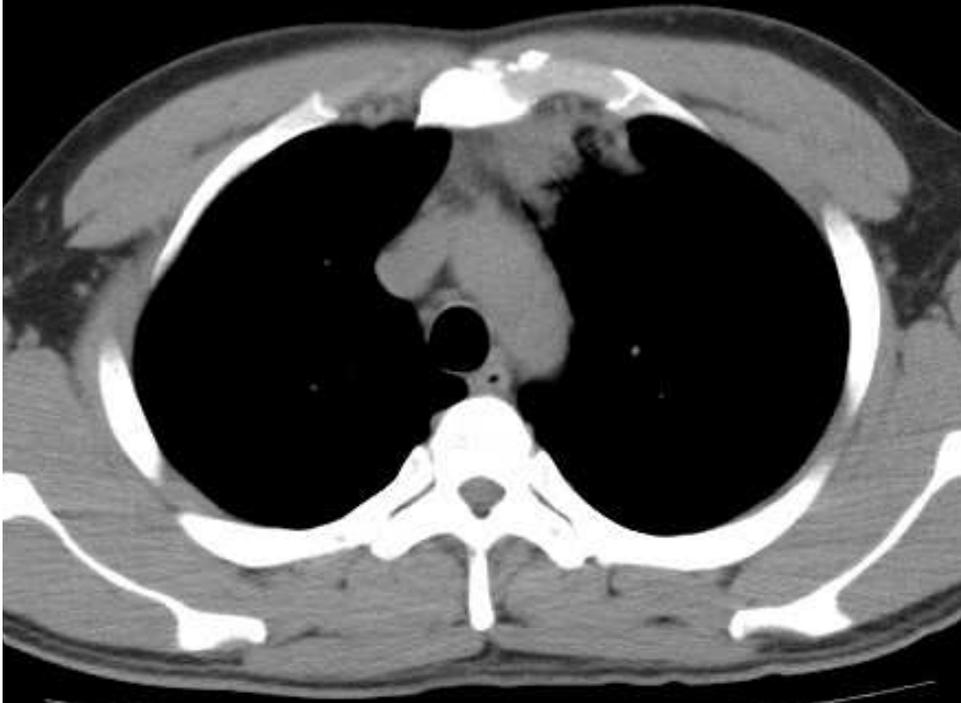
CR

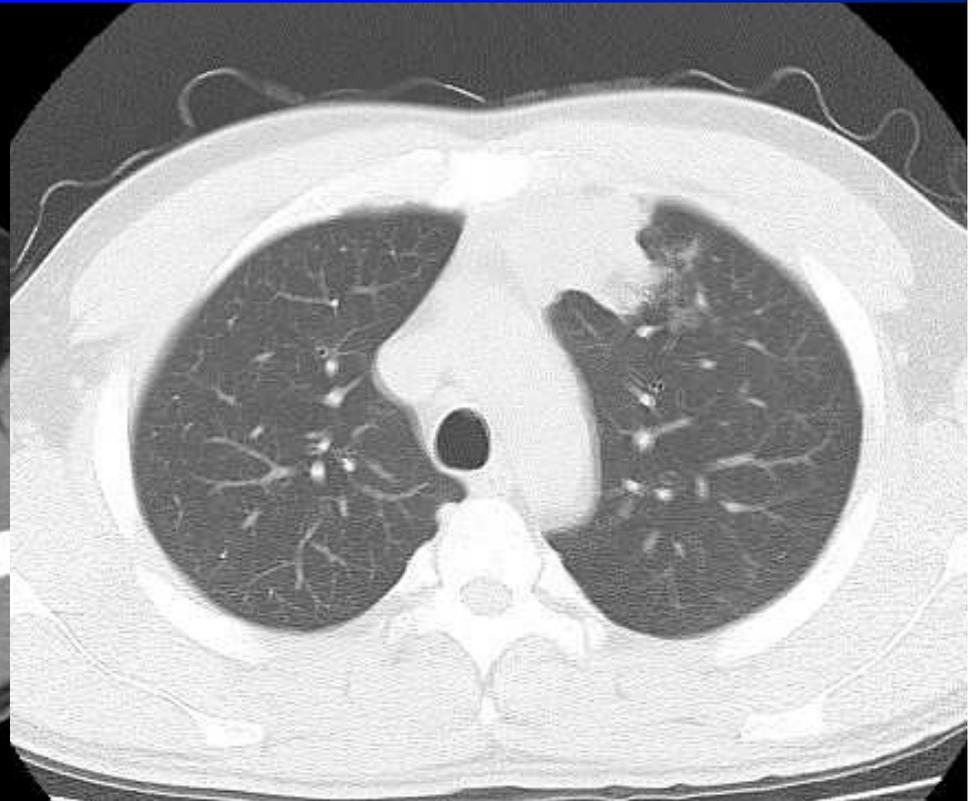
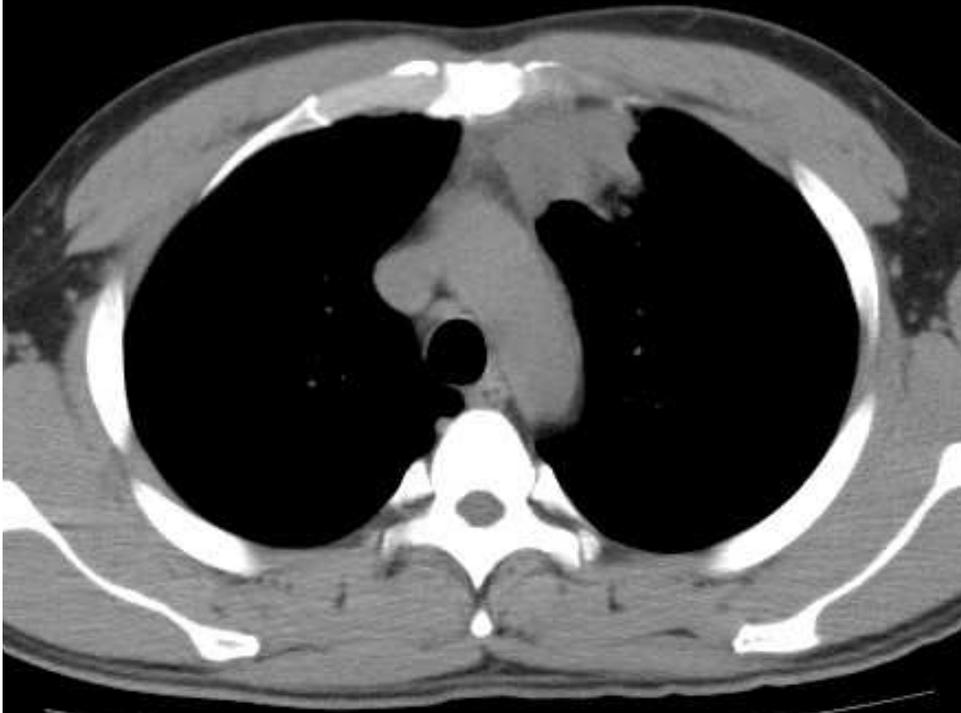


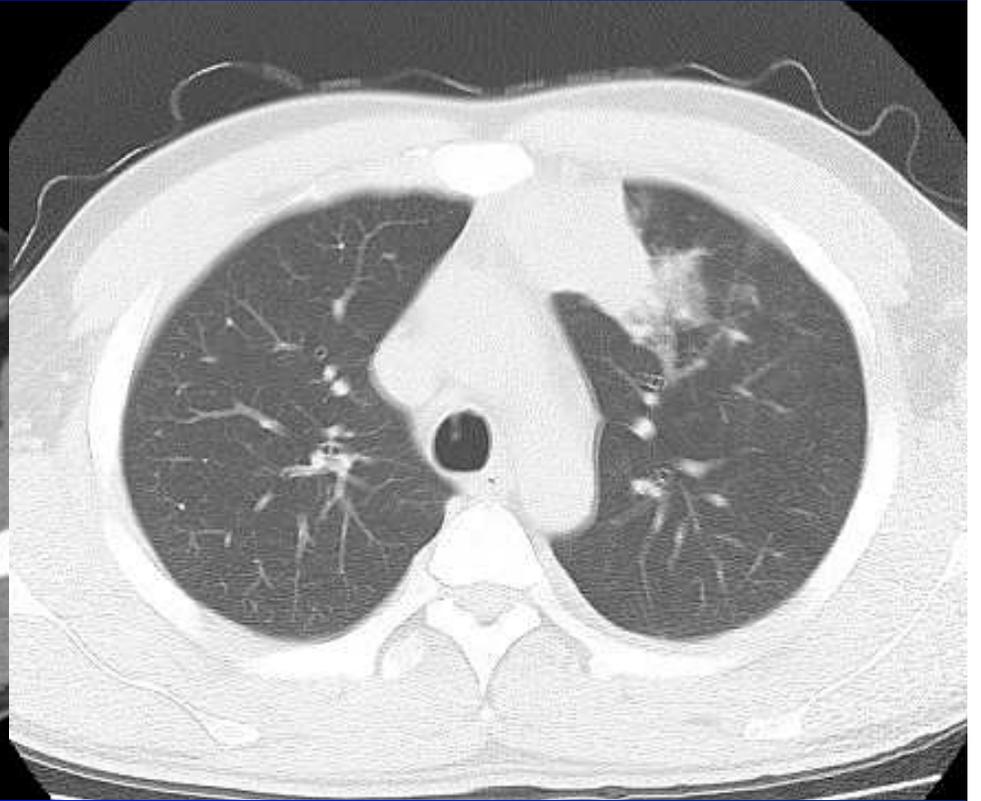
# 単純CT

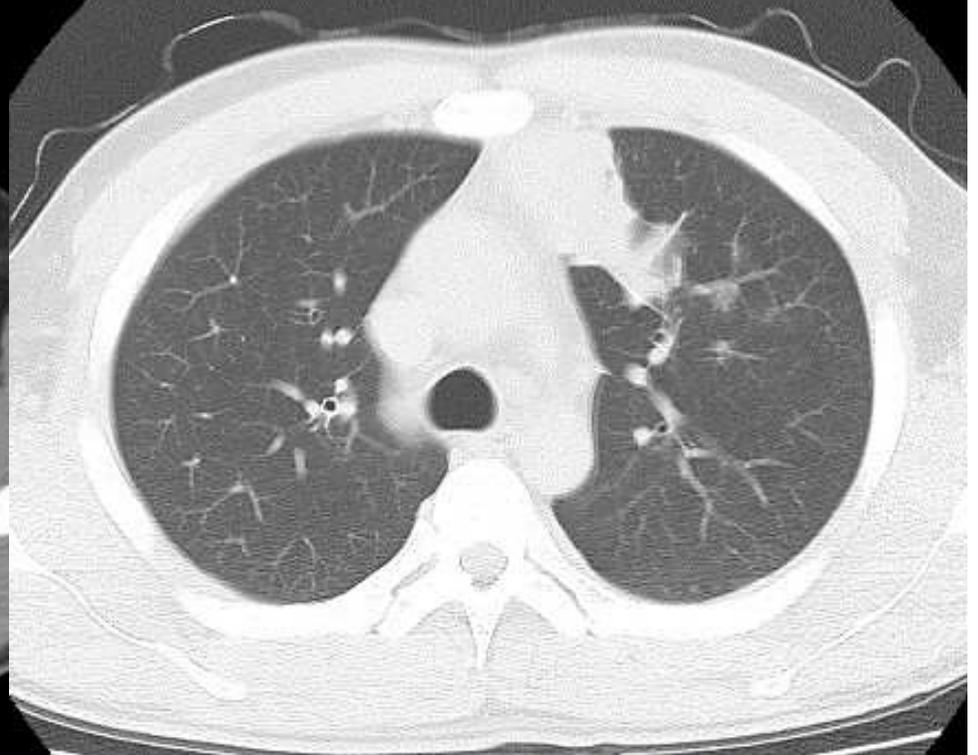
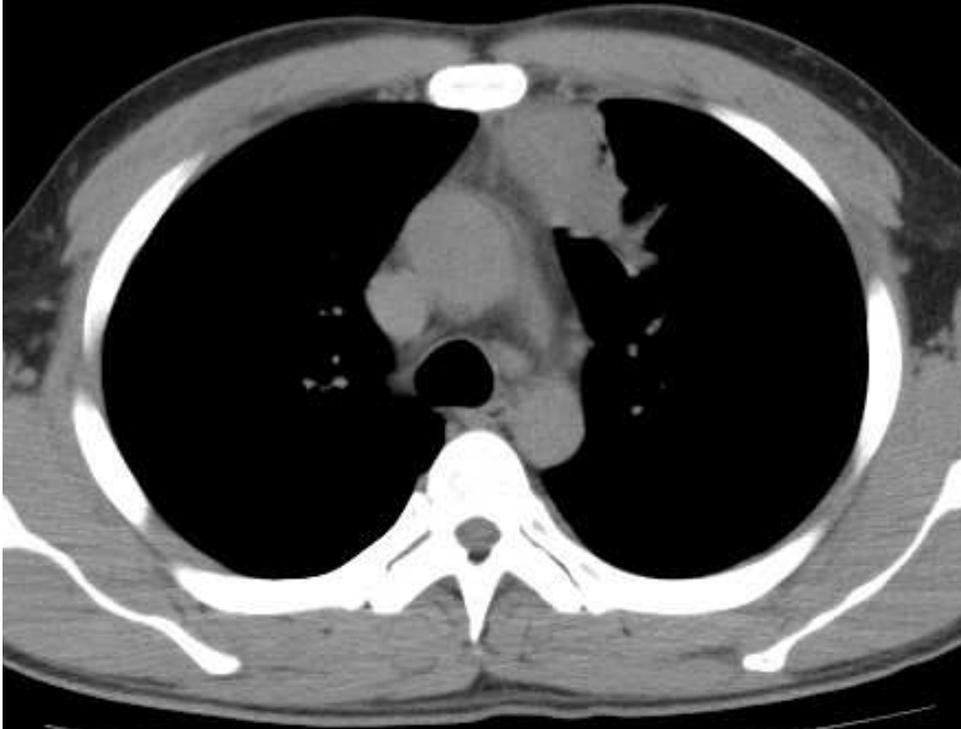


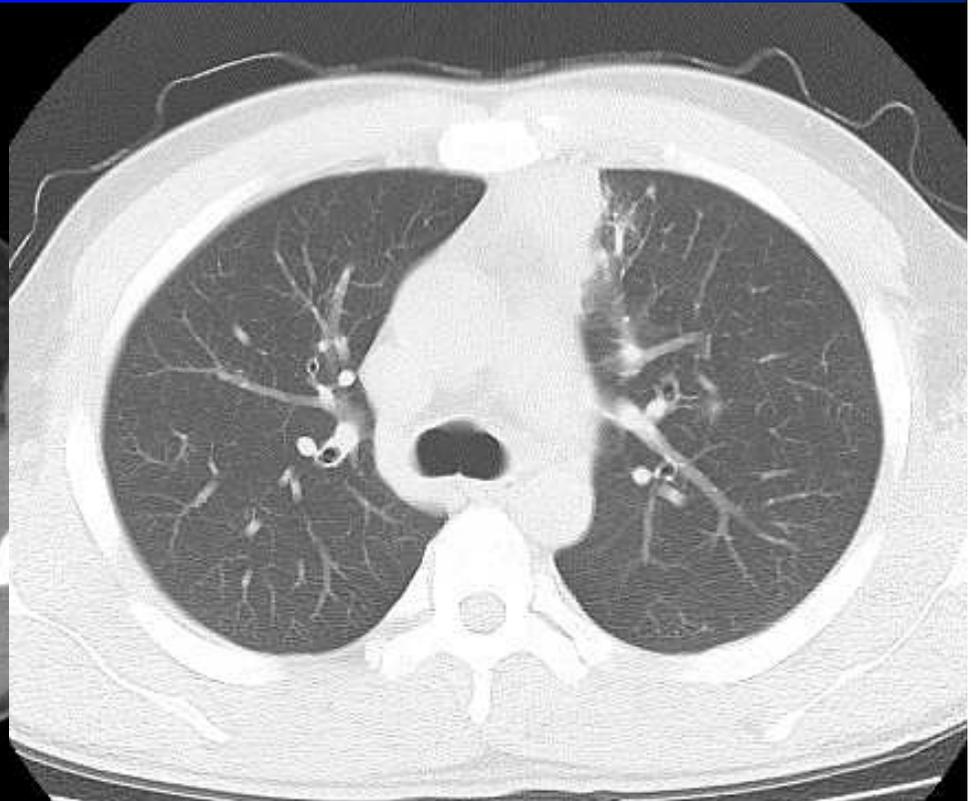
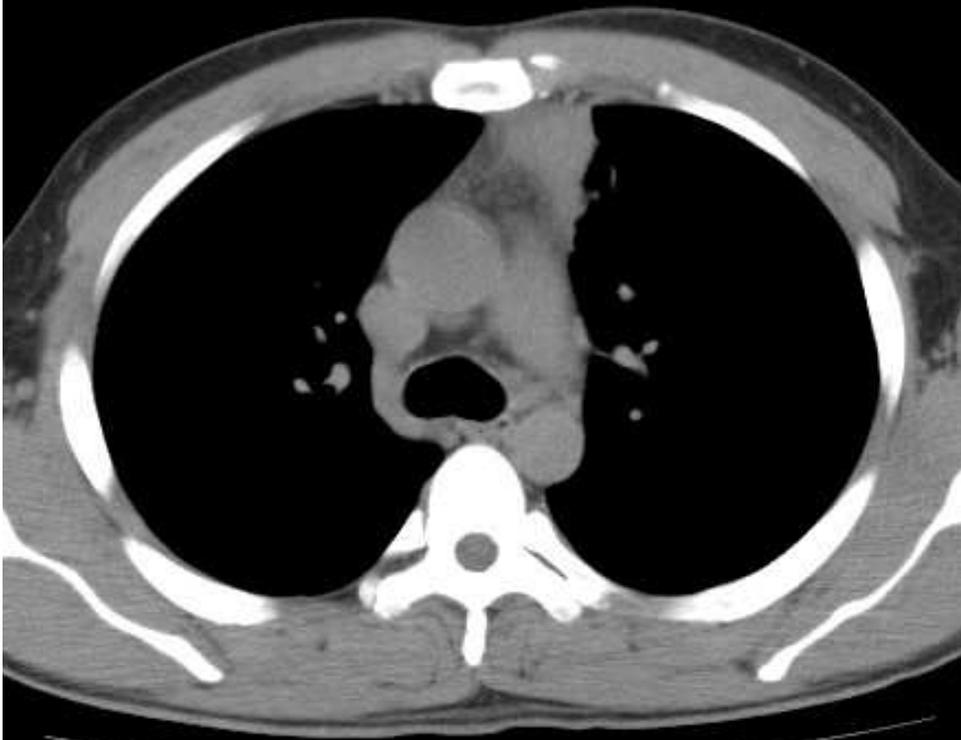


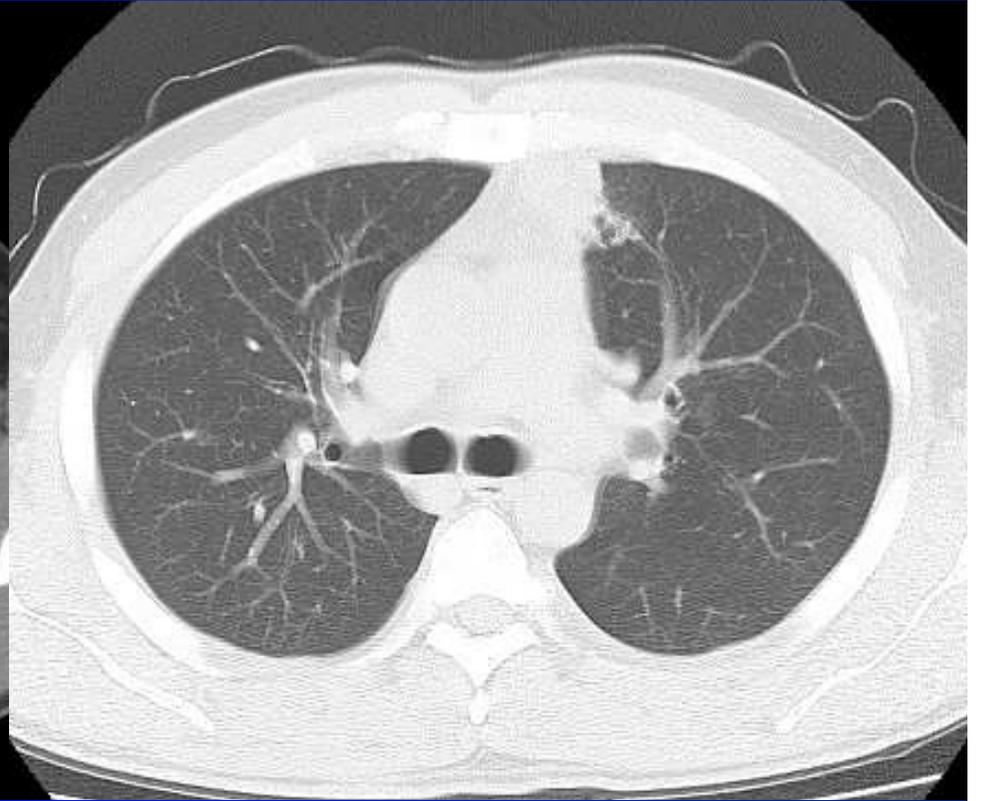


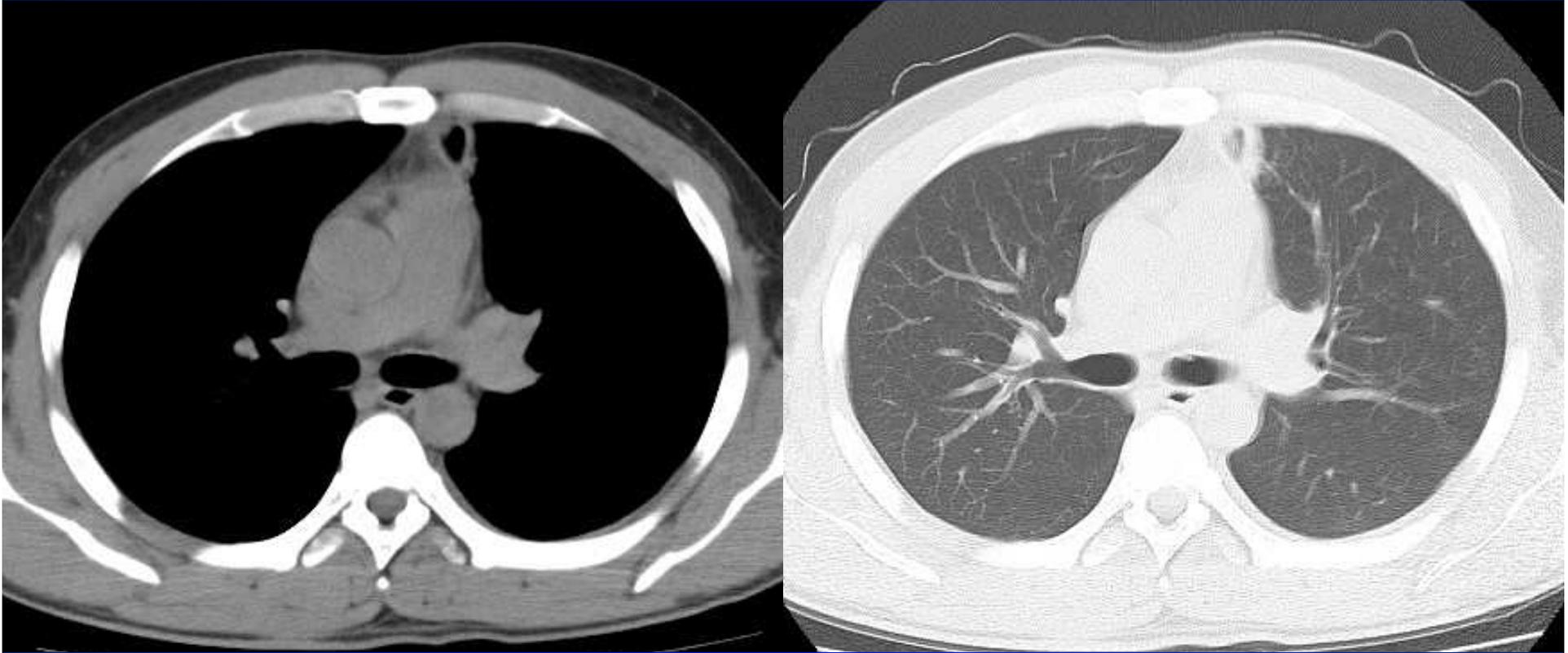


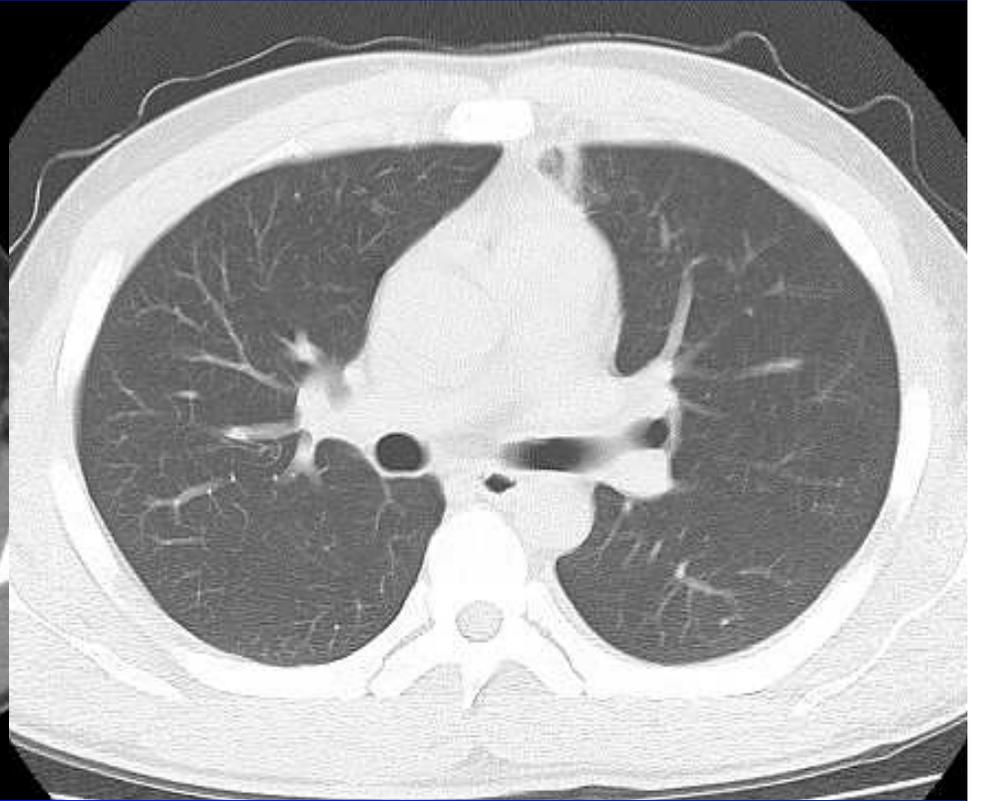
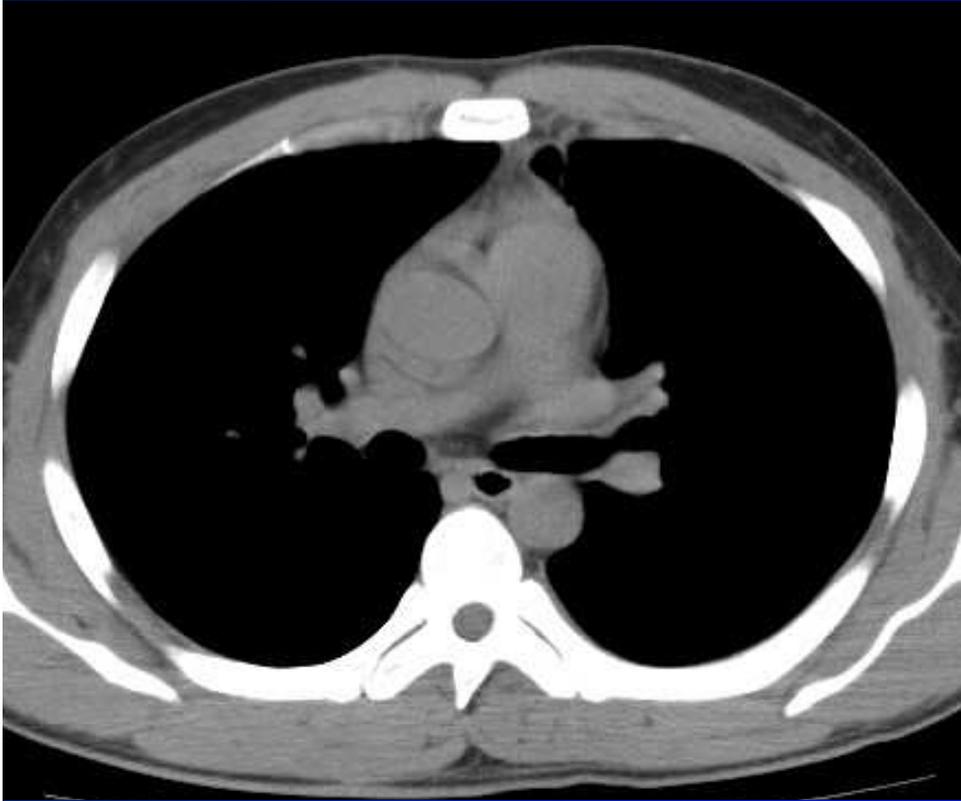








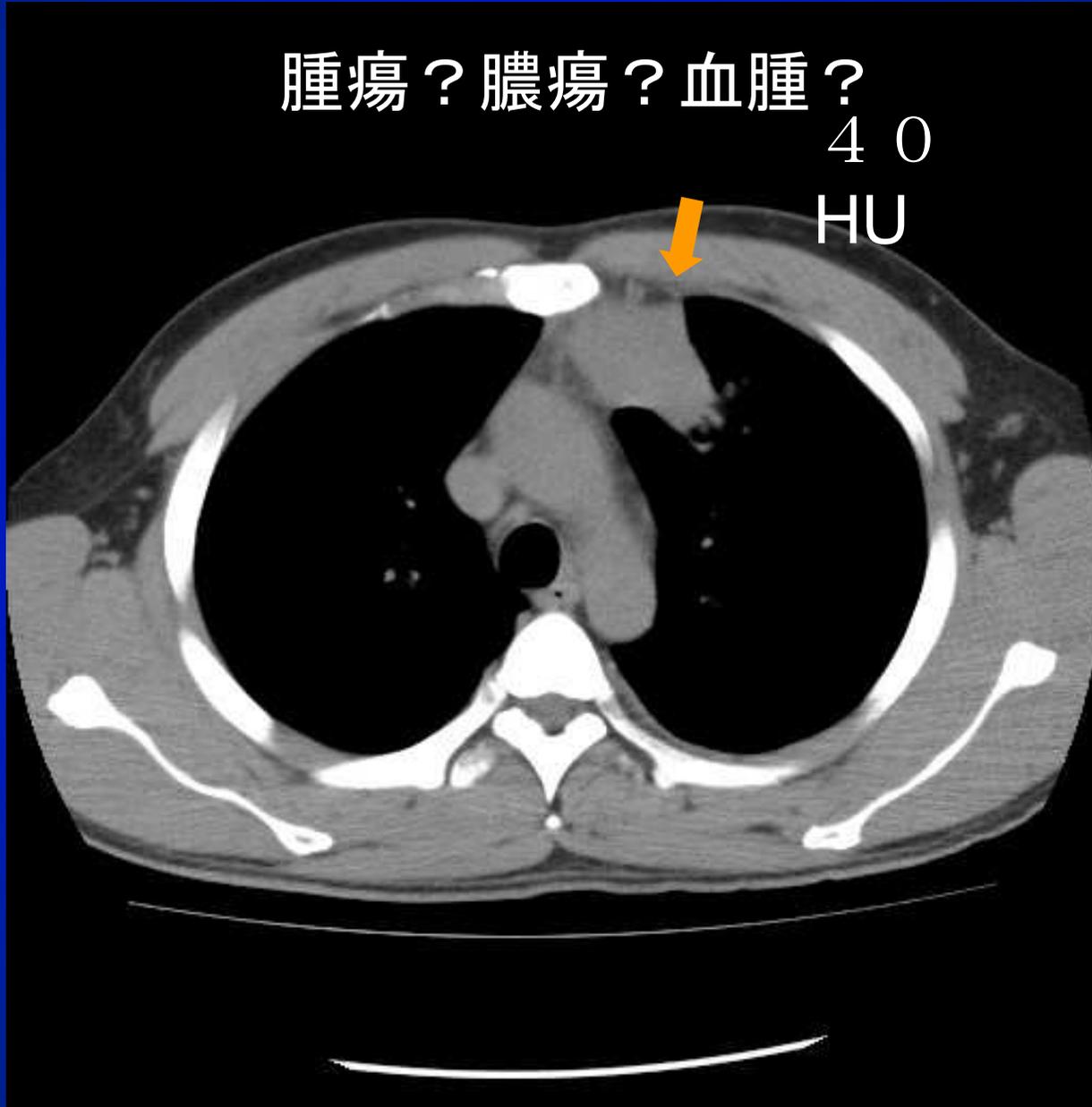




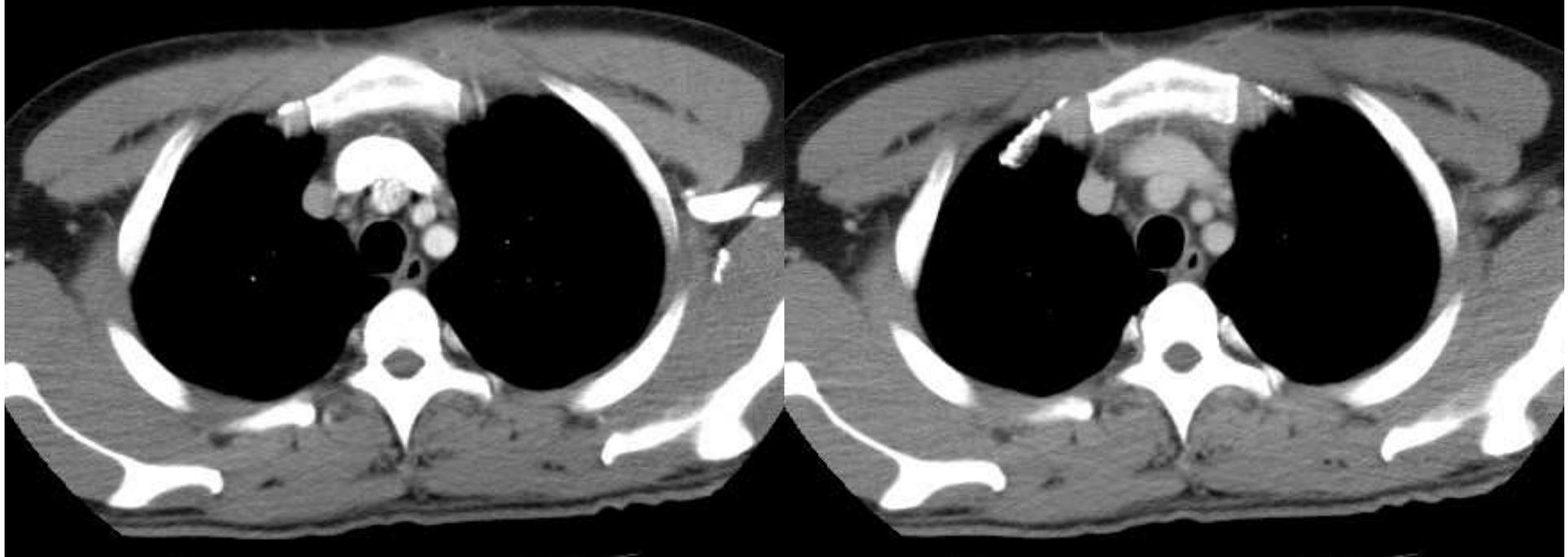
腫瘍？膿瘍？血腫？

40

HU

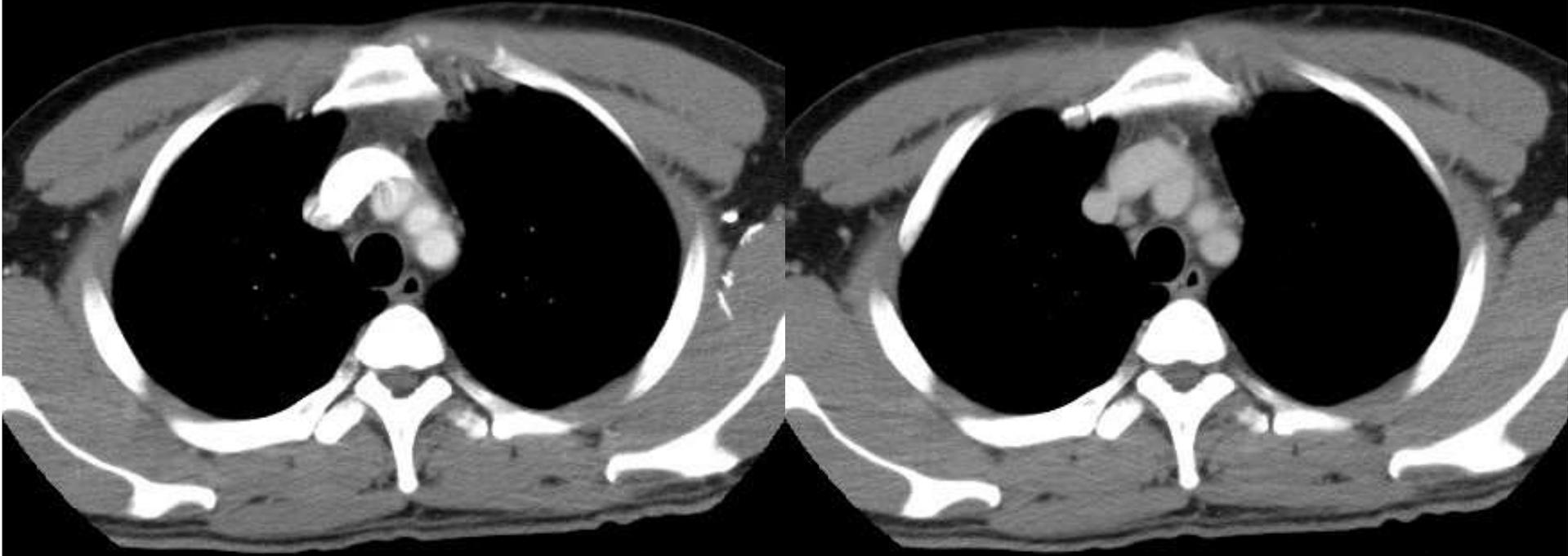


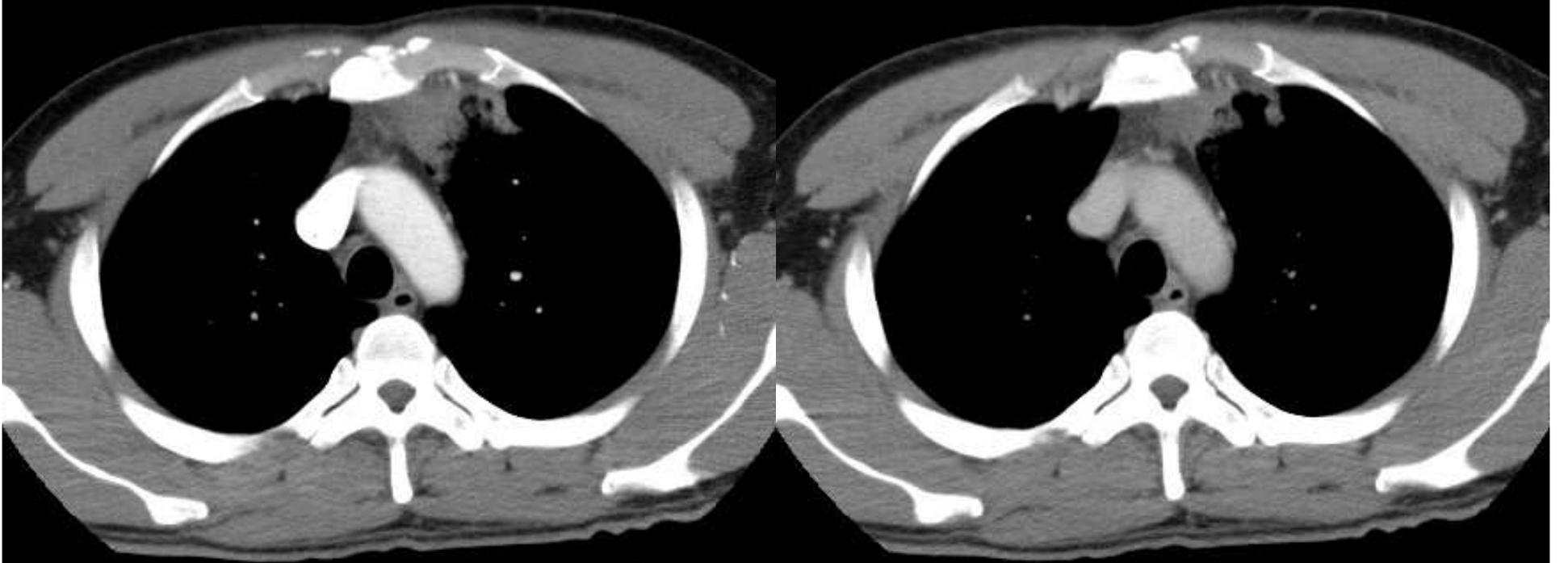
# 造影CT

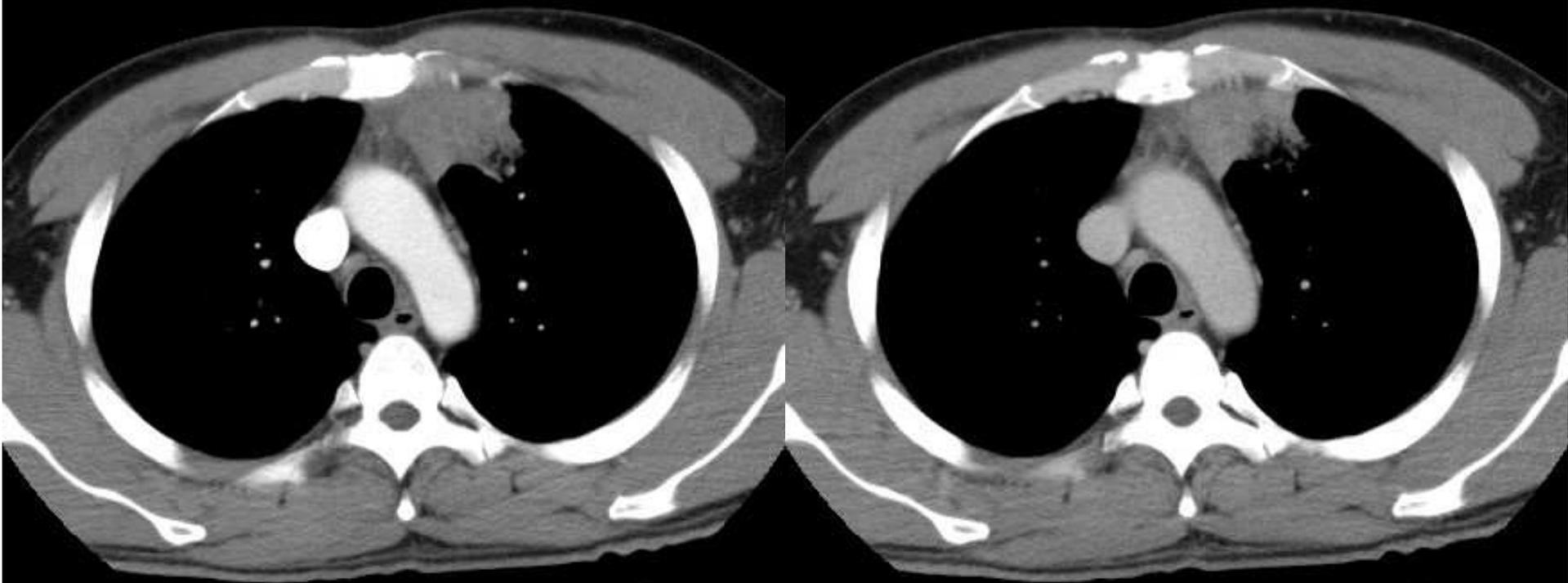


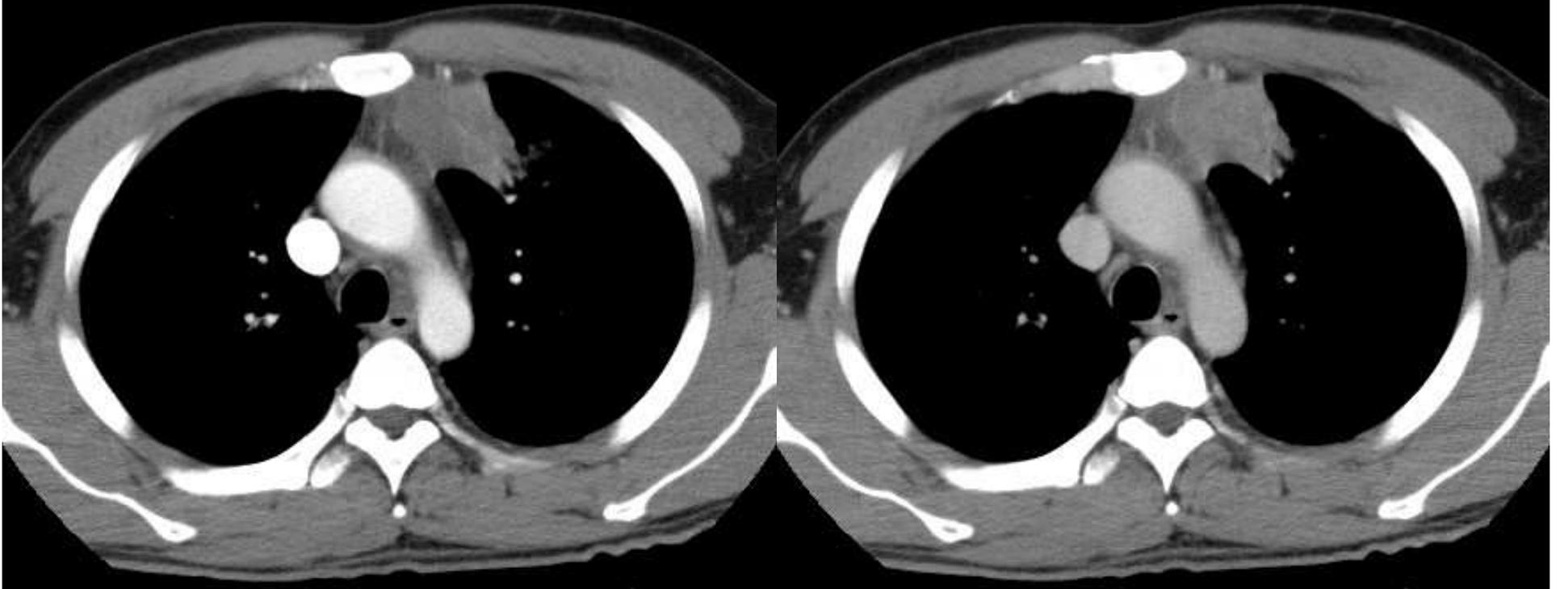
30s Delay

90s Delay

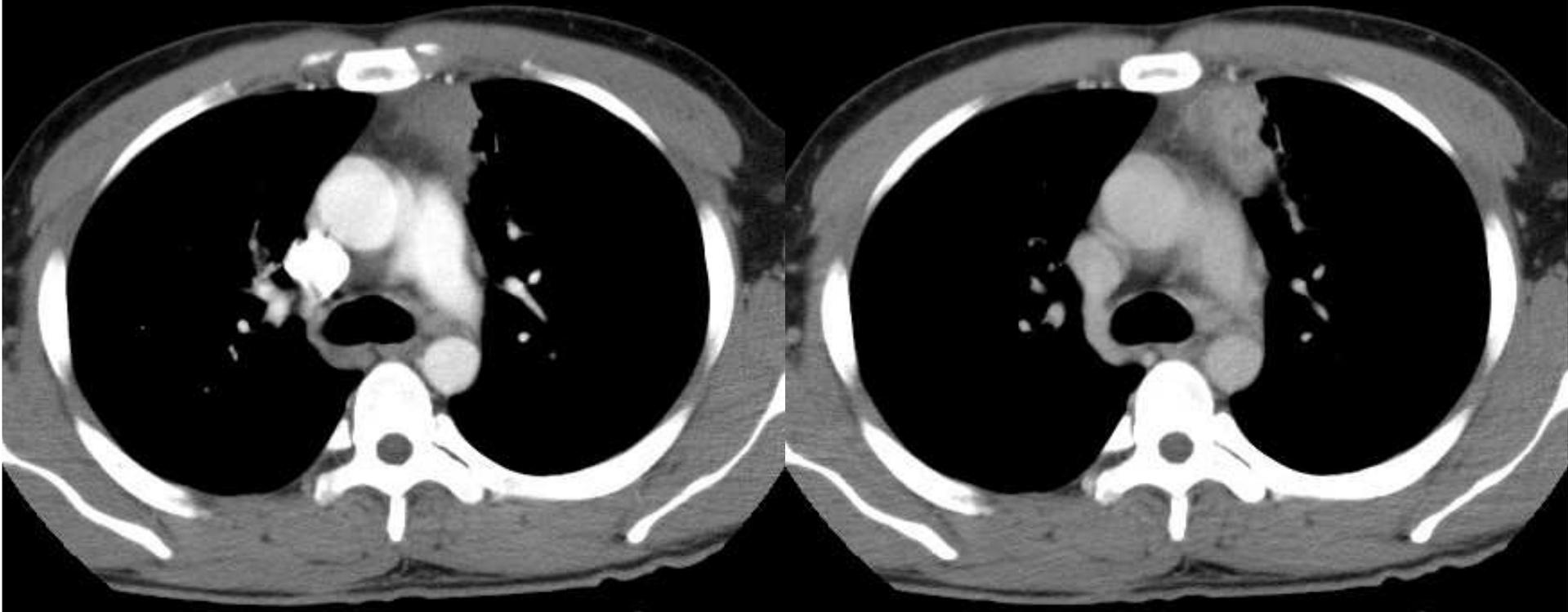


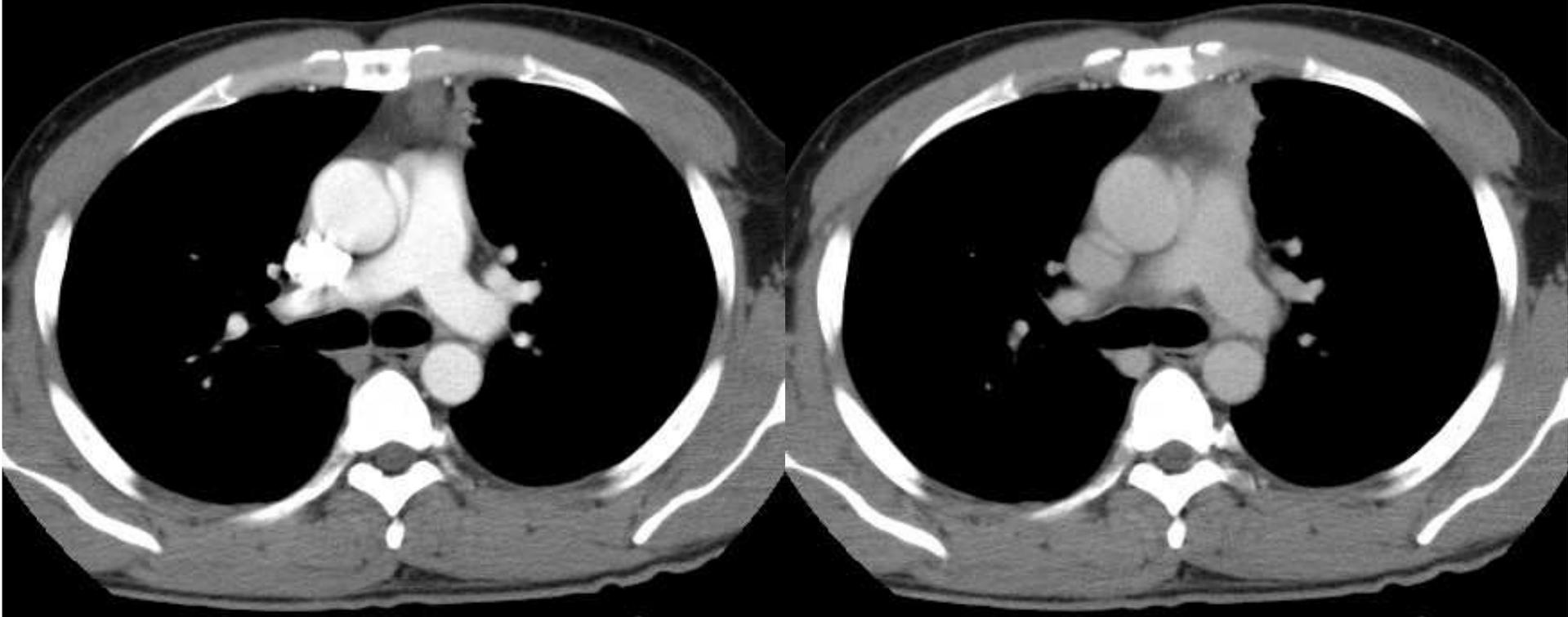


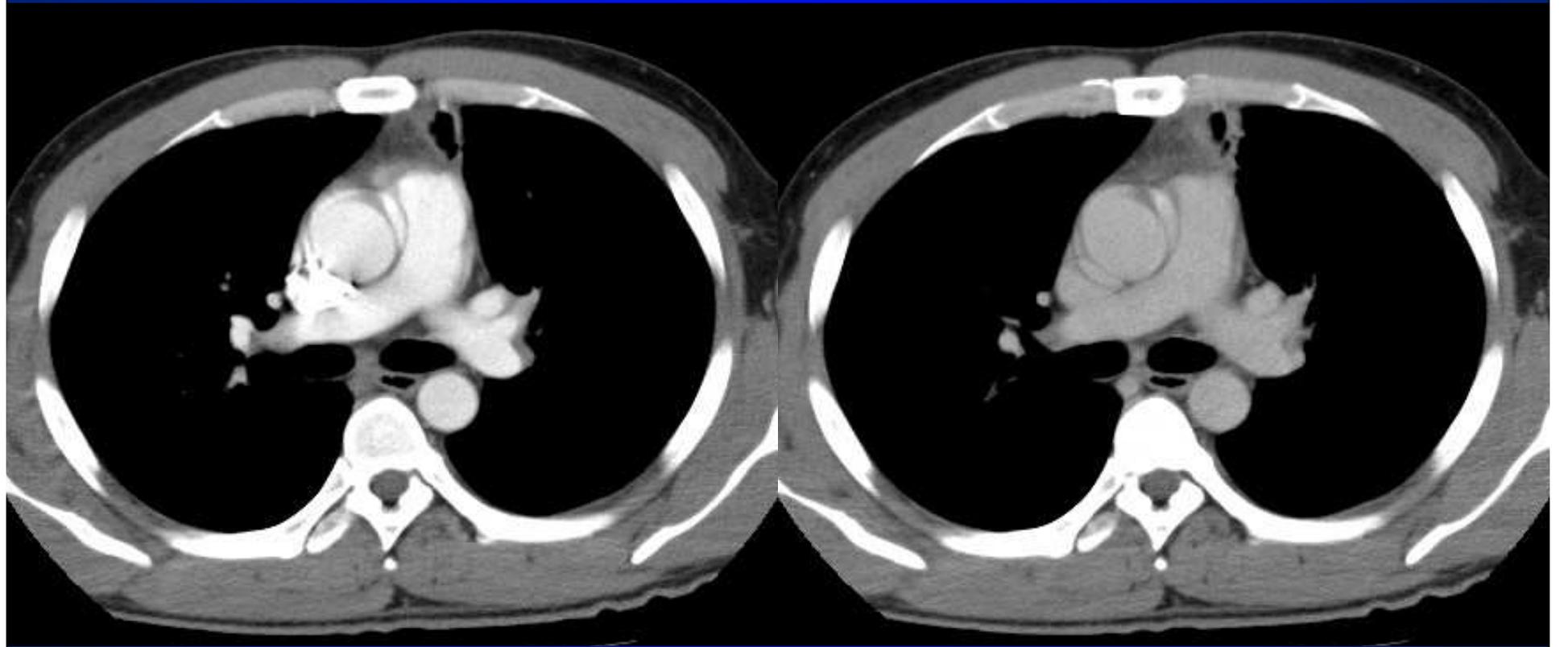






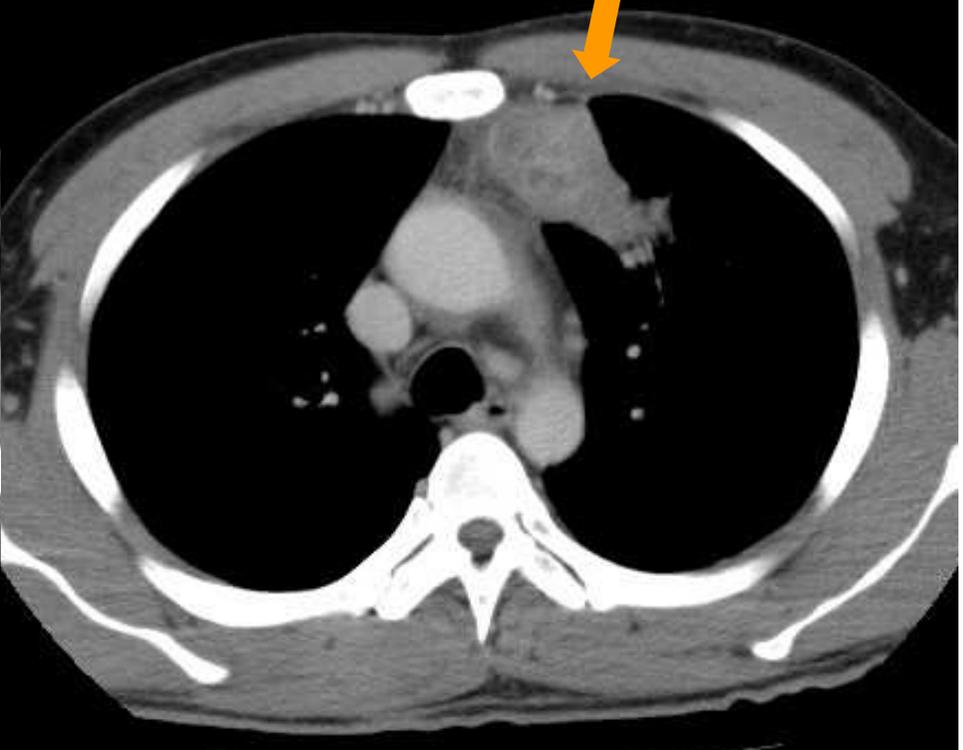






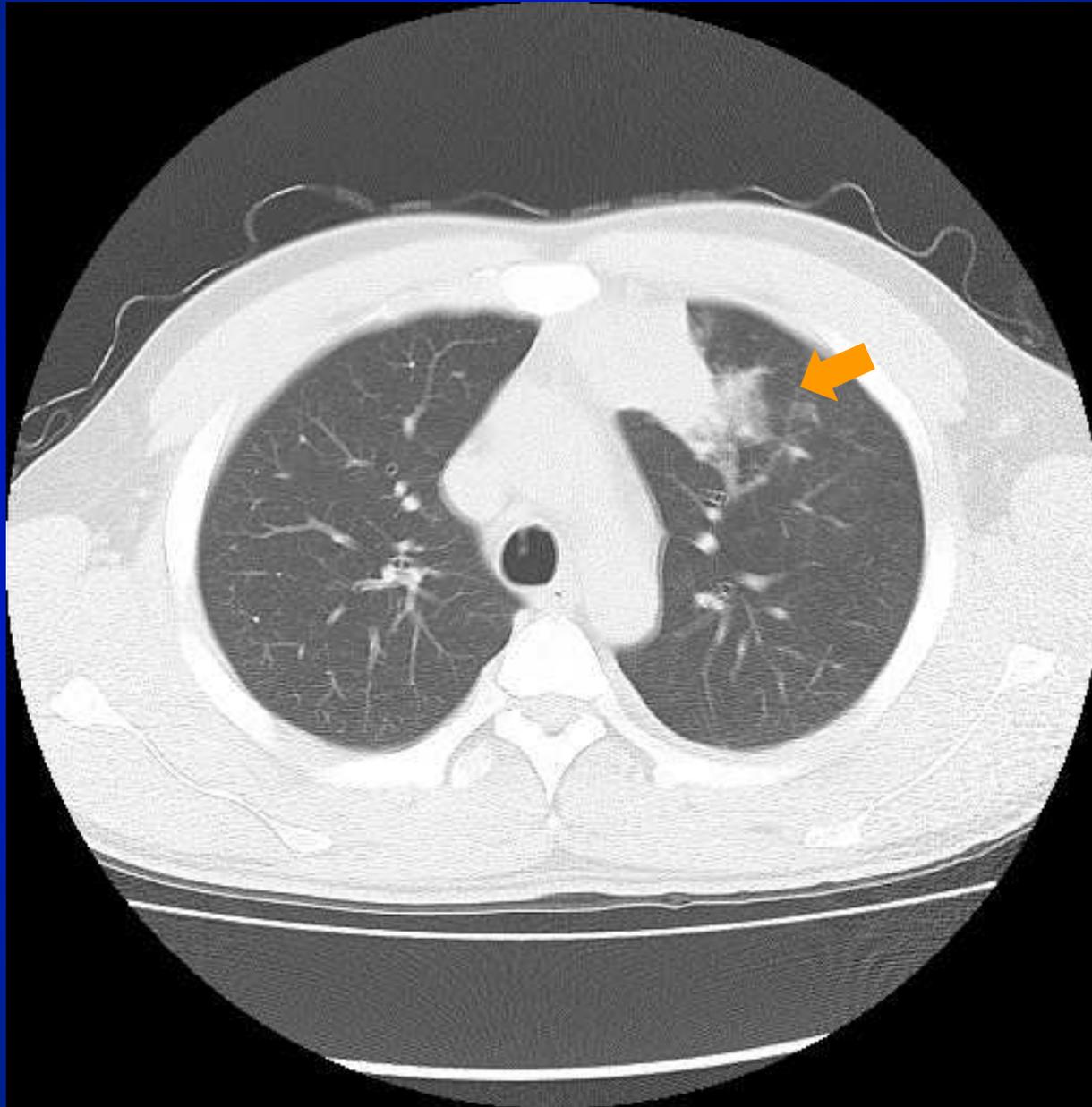
50  
HU

70  
HU

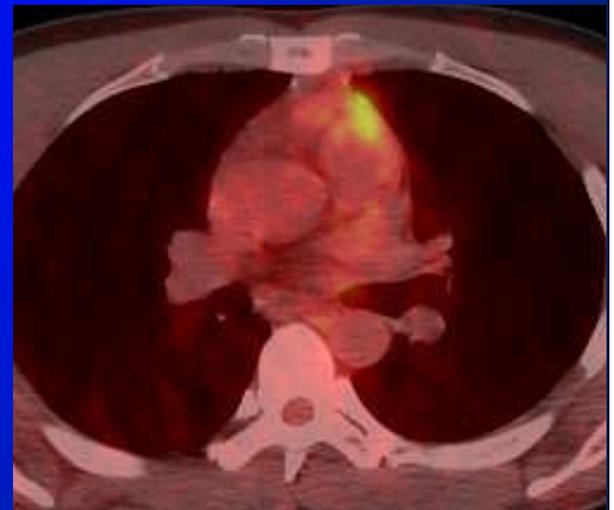
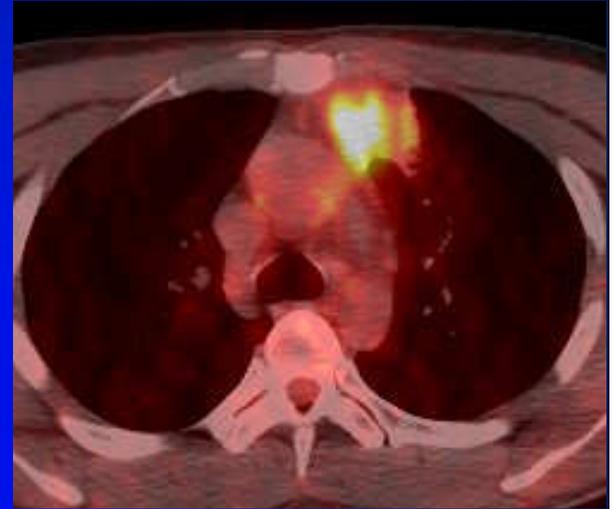
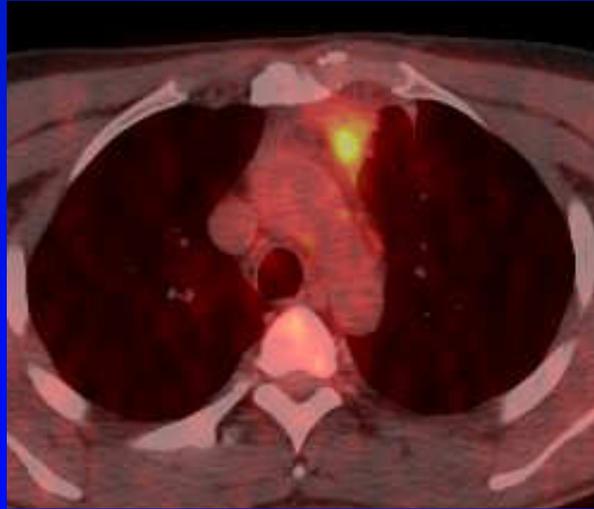


30s Delay

90s Delay

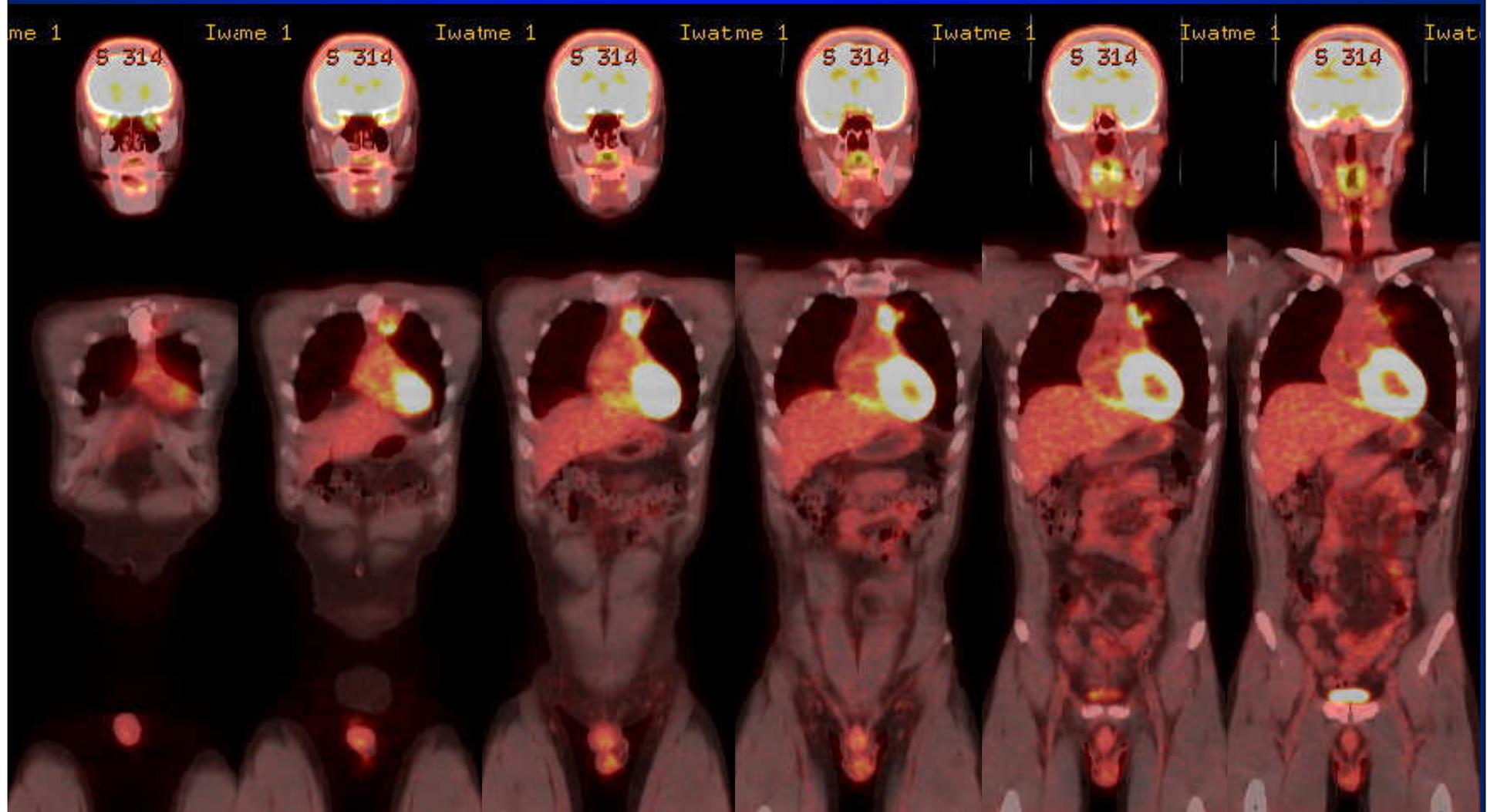


# PET-CT (Fusion-Axial)



SUV max 11.5

# PET-CT (Fusion-Coronal)



# CTガイド下生検



# 手術施行

開胸後、腫瘍を剥離。

大動脈を剥離したところで、腫瘍は胸膜に包まれていた為、肺原発と判断し術式を変更。

胸膜切開後、腫瘍を切除。

切除した腫瘍の病理診断は、多数の小型膿瘍と周囲組織には慢性炎症性細胞浸潤、リンパ球浸潤、肺胞内の器質化、マクロファージの集積があるが、腫瘍性変化はみられなかった。

## 考察

肺炎症性偽腫瘍の臨床報告を見ても、非常に鑑別が難しいと報告されている。

当院でも、CTガイド下生検では確定出来る結果は得られなかったが、造影CTやPET-CTの画像診断上、縦隔腫瘍と思われていた。

しかし、手術結果より肺炎症性偽腫瘍と確定されたため、めずらしい症例を経験した。